



植物部会観察会

11月28日(土)

◇森林総研 山城試験地

◇不動川砂防歴史公園

参加:10名 (一般2名、植物部会5名、河川レンジャー3名)
講師:(独立行政)森林研究所関西支所 小南祐志 グループ長

尾根タワー(高さ26m)から谷タワー(高さ35m)を望む

内容:午前 小南先生の案内により「広葉樹二次林の炭素循環に関する研究」(樹木等の二酸化炭素吸収量調査研究)や観測タワー(高さ26m)などの施設を体験案内

平成27年11月28日山城試験地、不動川砂防歴史公園を訪れて



ナラ枯れ(カシノナガキクイムシの被害)の説明を受ける



モノレールの乗車を体験し、小南 森林環境研究グループ長 の説明を受ける



昼休み: 試験地関連クイズ、小枝の「ぶくぶく」実験(山下会員)
つるかご網の完成品の紹介(山下会員)



午後: 不動川砂防歴史公園をクイズ方式で説明・散策(山下会員)
ウツギ、ムラサキシキブ、ネズミサシ、オオバヤシャブシ、ヒサカキ
などの樹木の紅葉などを観察しました



ムラサキシキブ





山城試験地の概要



- 1 場所: 木津川市山城町平尾地内 (北谷国有林)
- 2 面積: 1.7 ha
- 3 標高: 180~255m
- 4 傾斜: 0~35 (複雑地形)°
- 5 林相: 暖温帯性落葉広葉樹 (広葉樹二次林)
- 6 主な樹種: コナラ、ソコ、ネジキ、オオバヤシバシ
リュウブ、ヒサカキ、アカマツ、ニセアカイアなど
(クロマツが植林され、アカマツは松くい虫被害を受けた)
- 7 年間降水量: 1459mm、平均気温15, 5°C
- 8: 基岩: 風化花崗岩
- 9 林種: 保安林(土砂流出防備保安林)

研究テーマ

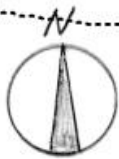
暖温帯広葉樹二次林における炭素循環に関する研究
(温帯林の炭素循環過程解明のための長期モニタリング)

研究機関名

国立研究開発法人 (独立行政法人)
森林総合研究所 関西支所 (森林環境研究グループ)

樹木の炭素蓄積調査の一環として
実施されている毎木調査は、試験地を5×5mの
メッシュ680個所に区分して 胸高直径3cm以上
の樹木(つる性植物を含む)全個体を、1994年
から5年置きに10~11月に実施されている
1994、1999、2004、2009、2014

京都森林インストラクター会(山下所属)は、2009
、2014の2回調査のお手伝いをしている。



凡例
—— モニター
- - - 今回歩コース

主な施設等

- ① 気象観測タワー2基(尾根タワー、谷タワー)
「CO₂のフラックス(FLUX):輸送量を計測」
2000年から実施されている
- ② 土壌呼吸量測定用チャンバー
(土壌や根などのCO₂交換量を測定する)
- ③ 樹液流速測定装置ほか各種気象観測装置

不動川砂防歴史公園（デリーケ堰堤）見取図

作成：NPO法人やましろ里山の会植物部会
森林インストラクター 山下 茂 作成

テ・レーケ(Johannis.do Rijke)(1842-1913)の紹介

明治6年来日、明治8年(1875年)山城町不動川の砂防堰堤施工
明治21年まで、三重、滋賀、愛知、群馬、長野、岐阜、富山、徳島、長崎で
砂防工事を指導、明治36年オランダに帰国、勲二等瑞宝章
胸像は西暦2000年に日蘭友好400年を迎え、日本の砂防事業の発展など
多大貢献を記念して山城町に贈呈される。平成12年に同じ胸像が木村基金
によりオランダの生誕地(ゴッスプラート)に設置される。

不動川砂防環境整備事業

場所：山城町平尾
 工事年度：昭和57年度～61年度
 事業費：123,000千円
 工事延長：本川：285.7m
 支川：147.8m
 施工：京都府砂防課、木津土木事務所
 現在の公園管理者：木津川市管理課、
 府山城南土木事務所管理室

園内には①砂防の歴史学習コース
②砂防の工法学習コースがあります
デレーケの工法としては、森林サイド
の山腹工法(積苗工)を取り入れて
ところに先見性が見られます。

